

ト マ ト (ナス科)												
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
植えつけ				収穫								

品 種

強力米寿、大型福寿、耐病F R I号、瑞光、大福、福寿100号、強力東光

〔ミニトマト〕 プチトマト、ピコトマト、レッドベアトマト、イエローベアトマト、レッドチェリートマト

栽 培 ポ イ ン ト

ナス科ですから連作ができず、4～5年輪作しなければなりません。

トマトは光に敏感ですから、特に日当たりのよい場所を選びます。日当たりが悪いと落果（花）します。

畑は耕土が深く排水がよく、しかも適湿のある肥えた土壌が理想的です。畑には、前もって1㎡あたり2握りの苦土石灰をまいて、よく耕しておきます。

かなり大きくなりますから、畝幅を広くとって、1㎡畝に1条植えか、1.8㎡畝に2条植えにします。トマトの根は深く入りますから、深い畝溝を掘って底に元肥えを入れて植えつけます。

●**肥料**● トマトは元肥えの量が多いと、草ばけ（草でき）を起こし、花茎が長く伸び、第1花房が落花してしまい、次の花房にも着花しないことがあります。そこで元肥えは控えめに施し、第1花房がピンポン球くらいの大きさになってから肥料を効かせるようにします。

特に、元肥えに早く効く化学肥料をたくさん使うのは禁物です。有機質肥料や緩効性肥料（ゆっくり効く肥料）を主体にします。追肥も、第1花房の花が終わり、着果したことを確かめてから1回、その後第1花房がピンポン球くらいになってから15日ごとに、4回ぐらい施します。

苗は本葉が7～8枚ぐらいで、第1花房が開花し始めるぐらいのものが植えつけに適した大きさですが、初心者は、これより小さめの苗のほうが植え傷みが少なくてよいでしょう。

●**植えつけ**● 植えつけは晩霜のなくなった5月の上～中旬にします。植えつけの前日に植え穴を浅く掘り、液体肥料500倍をたっぷり施しておきます。

植えつけは、風のない日の午前中に行います。植え穴に苗を置き、周囲の土を軽く寄せるようにして植え、仮支柱を立ててやります。前日に液肥を十分にやっていますから当日は水やりせず、翌日、午前中に水やりします。

1.8㎡畝に2条に植えつける場合は、花房を畝の内側に向けて植えつけ、1条植えの場合は、北か東に花房が向くように植えます。トマトは第1花房のついた側に、上まで花房がつきますので、こうすると、果実に強い太陽光線が当たらず、日やけが避けられ、着色がうまくいきます。

●**仕立て方**● 本葉9枚、草丈40cmくらいになると、第1花房の花が開花を始めますので、このころ本支柱を立てて、茎を支柱に縛ってやります。トマトの茎は生育するにつれて太ります。きつく縛ると茎がくびれますから、茎の周囲に余裕をもたせます。

トマトは普通、主枝だけ伸ばし、1本仕立てにします。各葉の上のわき芽は早めに手で欠きとります。ハサミやナイフで切ると、ウイルス病などが伝染するおそれがあります。芽欠きは午前中の水分の多いうちに行うようにします。

雨のはね返りによる病害の予防や、夏の乾燥と地温上昇防止に、敷きわらがたいせつです。

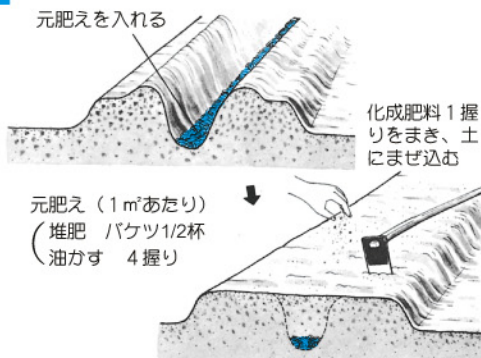
トマトはほうっておくと、どんどん伸びますが、実は熟すまでに、開花後50日ぐらいかかりますから、伸ばしっぱなしにせず、最後に収穫する時期を考えて、茎の先を止めてやります。

栄 養

ビタミンA、Cのほかクエン酸、ミネラルが多く含まれています。

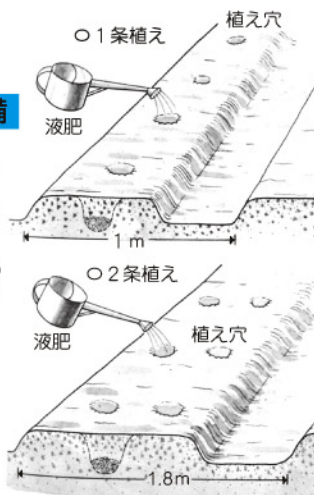
1 畑の準備

植えつけの1週間ぐらい前に、畝を作る。元肥えは1条植えも2条植えも、畝の中央に深い溝を掘って施し、畝の表面の土にも化学肥料をまぜる。

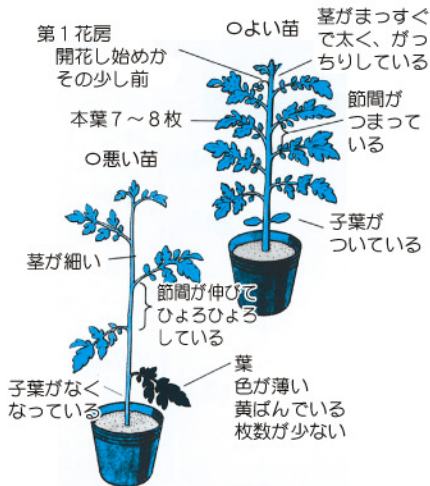


2 植えつけ準備

植えつけは5月上～中旬に行う。前日に50cm間隔に植え穴を掘り、500倍の液肥（液肥特2号など）をたっぷりやっておく。

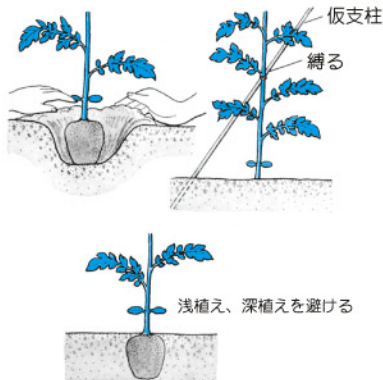


3 よい苗の選び方



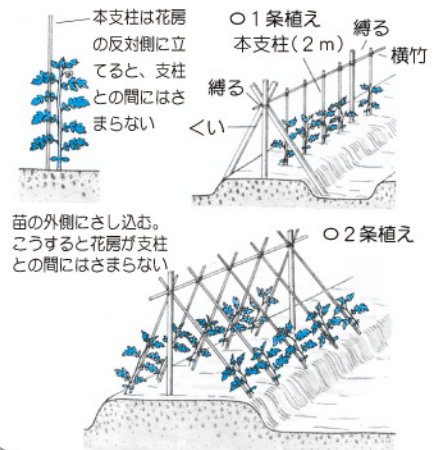
4 植えつけ

苗を植え穴に置いて周りの土を寄せるようにして植え、仮支柱を立て、苗が倒れないように軽く縛る。粘質土の畑では浅植えにすること。



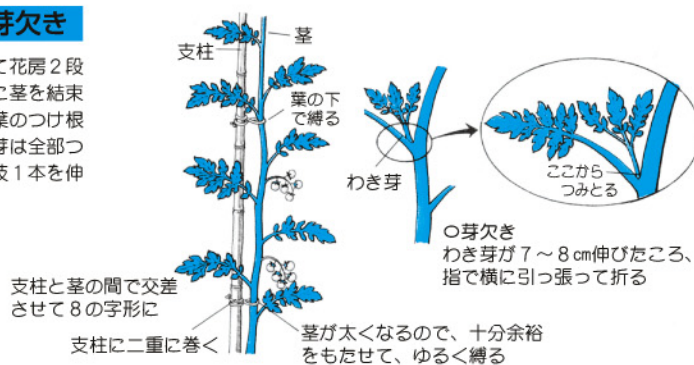
5 支柱立て

本葉9枚、草丈40cmぐらいになると、第1花房の花が咲き始めるので、このころ長い本支柱を立てる。茎葉の重みや風で傾かないよう、支柱は横竹やくいで補強し、しっかり縛る。



6 誘引・芽欠き

生長に従って花房2段ごとに、支柱に茎を結束する。また、葉のつけ根から出るわき芽は全部つま取って、主枝1本を伸ばす。

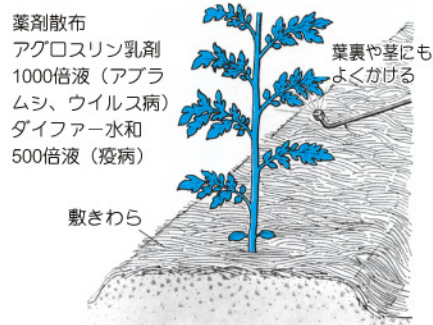


主な病害虫

- ◆病気 ウィルス病、疫病、萎凋病
- ◆害虫 アブラムシ

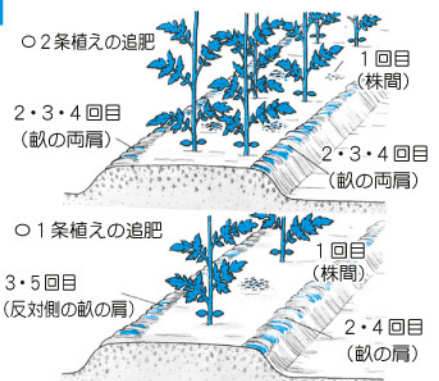
7 病害虫の防除・敷きわら

植えつけ10日後から10日ごとに、アブラムシ(ウィルス病)の防除を2~3回、6月に疫病などの予防を7日ごとに2回行う。梅雨入り前に敷きわらをし、梅雨明け前にさらに厚くしてやる。



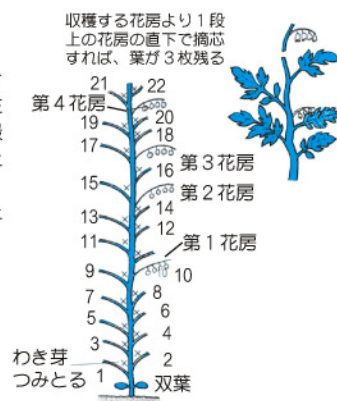
8 追肥

追肥は植えつけ1ヵ月後に1回施すが、以後は第1花房の実がピンポン玉くらいになるまで与えない。それ以降は15日ごとに、4回ぐらい施す。追肥量は1回につき化学肥料1握り。



9 主枝の摘芯

8月中に収穫を終らせるには、7月上~中旬に主枝を摘芯する。摘芯は、最後の収穫予定の花房の、上の2~3枚の葉を残して、その先をつみとって芯を止める。



10 プチトマトの仕立て方

主枝と、1段花房のすぐ下のわき芽を伸ばし、それ以外のわき芽は全部つま取り、2本仕立てにする。プチトマト以外のミニトマトは、1本仕立てでよい。

